（公社）埼玉県診療放射線技師会と埼玉県議会無所属県民会議の意見交換会

日時　平成 28 年 10 月 12 日（水）14：00
場所　埼玉県議会

出席者
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会　会長　田中　宏
埼玉県議会議員　無所属県民会議　代表　鈴木　正人（志木市）
埼玉県議会議員　無所属県民会議　石川　ただよし（久喜市）
埼玉県議会議員　無所属県民会議　井上　航（和光市）
埼玉県議会議員　無所属県民会議　大嶋　和浩（熊谷市）
埼玉県議会議員　無所属県民会議　岡　重夫（白岡市）
埼玉県議会議員　無所属県民会議　並木　正年（鴻巣市）
埼玉県議会議員　無所属県民会議　美田　宗亮（三郷市）

議題
1. 特別授業「放射線について考えよう」
2. 埼玉県民に対しての被ばく相談事業
3. 原子力災害時放射線サーベイチーム

埼玉県診療放射線技師会（以下、本会）は公益社団法人であり、設立目的は診療放射線学と地域保健医療の向上、そして県民の健康保持増進である（定款第3条）。つまり、県民のために職能団体として何ができるかということである。今回、上記3つの議題について県民の代表である県議会議員団の先生方と意見交換会の機会を得ることができた。これも、本会の監事である鈴木正人先生が無所属県民会議の代表を務めていることで実現できたといっても過言ではなく、鈴木正人県議に深謝申し上げる。

岡重夫県議司会、鈴木正人県議議長のもと、意見交換会が進められた。

1．特別授業「放射線について考えよう」

この事業は、福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、放射線に関する知識を深めるために放射線に関する授業に取り入れようとする文部科学省からの方針に基づくものである。本会では平成26年より無償で県立高校を対象に、本会会員が県立高校の教壇で授業を受け持っている。
授業内容は以下の通りである。

① 福島第一原子力発電所事故
② 原子力事故による被害
③ 事故からの復興・再生に向けた取組
④ 原子と原子核
⑤ 放射線の種類と性質
⑥ 放射線による影響
⑦ 非常時における放射性物質に対する防護
⑧ 退避や避難の考え方

平成26年から始めた本会の公益事業は、川越西高校、寄居城北高校、常磐高校、上尾高校、熊谷女子高校で行った実績がある。また、授業前と授業後の生徒に対するアンケート調査を行っている。授業後は前と比較し放射線の知識に関する理解度は向上し、放射線に対する不安は解消した結果であり、授業前は特に理由もなく、放射線は「怖い」という印象が強かったが、日常生活の放射線の利用や放射線を安全に管理するという内容に対して、不安を解消することができたという実績の報告があった。また講師の条件として、定期的な講習会を開催し「生徒に理解していただく」というスキルを身に付けるために、自己研鑽を積んでいること。正講師、准講師という制度を設け、教えるスキルに一定のハードルを設けていることなどの説明があった。今後は、1年間に10校程度に増やしていきたいという要望をお伝えした。県議会の先生方からは「放射線」というものが、ある特定の考え方により、より不安を煽ることは望ましくないということから、身近な実務経験豊富な診療放射線技師に期待をしているという意見をいただいた。

2. 埼玉県民に対しての被ばく相談事業

田中会長からは、本会における過去5年間の被ばく相談実績の報告があった。各市町村で行われる健康祭りでの開催やホームページからの相談など、1年間で約16会場での被ばく相談を行っている実績を報告した。また実際の被ばく相談事例の報告も行った。県議会の先生方からは埼玉には原子力施設などはないものの、東日本大震災以降、市民からの相談を行政が受ける際、その対応に苦労されたという話や、福

島の一部の地域から埼玉に避難されたという話を頂いた。田中会長からは、当時は本会として十分な対応ができていなかった反省から、今後は行政と共にできる限りご協力させていただきたいという要望があった。

3. 原子力災害時放射線サーベイチーム

原子力サーベイチームとは日本診療放射線技師会が各都道府県技師会に平成 28 年度に結成を指示した組織である。埼玉県では 10 人の診療放射線技師で結成されており、チームの存在をアピールさせていただいた。田中会長からは、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故において、日本診療放射線技師会から多数の診療放射線技師を派遣し、避難所などでサーベイヤーとして活動を行った実績についての報告があった。さらに埼玉県には原子力発電所はないが、埼玉県民が他県で何らかの事故や事象により、被ばくの恐れがあった場合や他県からのサーベイチームの派遣の要請があったときは、本会としてもできる限り対応したい旨を申し出た。県議会の先生方からは、行政で原子力災害に備えた広域避難計画の対応についてマニュアルを整備する際は、ぜひ協力していただきたいとの依頼があった。

災害とは予告なしで起こるものであり、普段から放射線に身近な専門家として、県民に何ができるかということを、政治や行政と確認しておくことが重要であると感じた。

本会の埼玉県民に対するこれまでの活動と今後の展望について、有意義な意見交換が交わすことができました。埼玉県議会無所属県民会議の先生方には長時間にわたり、活発なディスカッションと貴重なご意見を頂戴し感謝申し上げます。

左　鈴木正人氏　　右　田中　宏氏

文責　公益社団法人埼玉県診療放射線技師会　会長　田中　宏

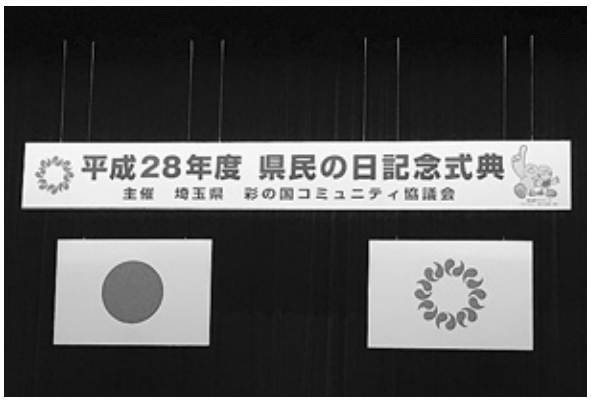
埼玉県知事表彰を受賞して

越谷市立病院
矢部　智

11月14日（月）「平成28年度県民の日記念式典」が、さいたま市文化センターにおいて開催され、保健衛生功労知事表彰を受けてまいりました。今回の名誉ある受賞に際し、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の田中会長はじめ理事、表彰委員の方々に深く感謝申し上げます。また永きにわたり温かく見守っていただいた職場の皆さまにもお礼申し上げます。私の技師会での活動は、編集委員4年、公益理事2年、総務常務理事4年、現在は総務委員としてのべ15年ほどお世話になっております。利害関係のない、同志の集団に打ち解けあうことに時間はかかりませんでした。職場では聞けない情報や相談など、小川清前会長をはじめ田中会長、堀江副会長、橋本監事には、公私にわたり相談させていただき大変お世話になりました。またあの未曽有の東日本大震災では、3月12日の1号機、14日の3号機、15日には4号機の水素爆発が起こり、同日の2号機はベントに失敗し格納容器から直接放射性物質を含む気体が漏洩し、最も多くの放射性物質が放出されました。私は、日本診療放射線技師会の放射線サーベイ派遣隊第1クルーとして16日から21日までの6日間を福島県でサーベイヤーとして活動させていただきました。また平成26年度には環境省委託事業の「福島県外における住民の個人被ばく線量測定事業」にも参加させていただきました。

今回の受賞に際し、私のような者でも診療放射線技師として評価され信用を頂けたことは身に余る光栄でした。今後は、さらに信頼をいただけるよう精進を続ける次第です。

最後に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のますますのご発展と会員の皆さまのご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。



埼玉県公衆衛生事業功労者表彰を受賞して

埼玉医療生活協同組合　羽生総合病院
長谷川　英治

平成 28 年 10 月 21 日、さいたま共済会館において第 60 回埼玉県公衆衛生大会が開催され、公衆衛生事業功労者として表彰の栄に預かりました。

この名誉ある表彰を受賞するに当たり、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の役員・会員の皆さま、そして職場である羽生総合病院の皆さま、関係各位に深く感謝申し上げます。

田中会長より、推薦のお話を伺ったときには、歴代受賞者の皆さまのような功績も何も無いのにと思いましたが、埼玉県診療放射線技師会の推薦ということで、あらためて私のようなものを推してくださりありがたいことだと感じ、受賞の重みを受け止めています。また諸先輩方より、お祝いのお言葉を頂き、恐縮している次第です。

私としては、昭和 61 年、診療放射線技師免許を取得し、以来 30 年診療放射線技師として仕事をしてきました。その中で、第四地区役員として 10 年間、埼玉県診療放射線技師会の地区理事として 4 年間、拙いながらも技師会の仕事をさせていただきました。その間に多くの方々と巡り合えたことは、私にとってとても新鮮な事であり、またその後の人生での財産となっています。とくに近隣の病院で働く技師の方々と知り合えたことは、非常にうれしく、ありがたいことでした。困ったときに気軽に相談できる仲間となっています。当院は徳洲会グループの病院ですが、ことわざ通り「遠くの親戚より近くの他人」という関係が築けたのも、この技師会活動のおかげと思っています。

この受賞を機会に、さらに患者さまに必要とされる技師を目指し、チーム医療の一翼を担えるよう努力する所存です。

最後に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の更なる発展と会員皆さまのご活躍、ご健勝を祈念申し上げます。

埼玉県公衆衛生事業者功労賞を受賞して

所沢市保健センター
千田　俊秀

このたび、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の推薦を得て平成 28 年 10 月 21 日、第 60 回埼玉県公衆衛生大会において、公衆衛生事業功労者表彰を受賞致しました。このような栄誉を受けることができましたのは、田中会長をはじめ、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会役員の方々、会員の皆さまのご指導の賜物であり、心より感謝申し上げます。

また今回の受賞は私個人というより、第二地区会（現第二支部）会員皆さま、所沢市市民医療センター放射線科スタッフ一同が頂いたものと思っております。

私自身は、昭和 62 年所沢市役所に入職し、診療放射線技師として 29 年が経過しました。

当初より胃 X 線検査に興味を持ち、人間ドックや住民胃がん検診で延 67,000 件以上の検査を行ってきました。1 人でも多くの早期胃がん、内視鏡的治療可能ながんを見つけようと今も TV モニターを覗き込んでいます。

技師会活動は会員になる以前より、国立障害者リハビリテーションセンター病院・前野元理事の紹介で地区（現支部）役員となり、行事に参画し、勉強会、施設見学、花見、納涼会、忘年会など、いろいろな行事を通じて他施設の技師と交流を深め、良き仲間ができました。平成 11 年度より埼玉石心会病院・間山元理事の後任として地区理事となり 6 年間務めさせていただきました。当時は 30 代若造、意気込んで諸先輩の前で生意気なことを言って不愉快な思いをさせ、ご迷惑を掛けていたように思います。それでも当時の藤間会長、磯田副会長はじめ、理事の方々のご指導により今の自己形成の一端であると思っております。昔も今もこれからも技師会は私自身の宝であると自負しております。

最後になりますが、これからも微力ではありますが公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のますますのご発展と、会員皆さまのご活躍、ならびに公衆衛生事業に貢献できるよう、精進してまいりたいと思っております。今後とも皆さまのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、お礼のごあいさつとさせていただきます。

左；長谷川氏　中央；田中会長

平成 28 年度　MRI 基礎講習会の開催報告

埼玉県診療放射線技師会
学術理事　栗田　幸喜

「専門技術者認定試験から学ぶ MRI の基本知識」として、11 月 13 日にさいたま赤十字病院の 4F 成人病センターにて平成 28 年度 MRI 基礎講習会が開催された。参加者数は 28 人であった。受講者ならびに講師、協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

プログラム

平成 28 年 11 月 13 日（日）

12：30 ～	受付		
13：00 ～ 13：20	問題Ⅰ模擬試験「頭頸部，脊椎，骨・他」		
13：20 ～ 14：20	問題Ⅰ解説	埼玉医科大学病院	近藤　敦之
14：30 ～ 14：50	問題Ⅱ模擬試験「腹部，骨盤・他」		
14：50 ～ 15：50	問題Ⅱ解説	済生会川口総合病院	丸　武史
16：00 ～ 16：20	問題Ⅲ模擬試験「第 11 回試験問題・他」		
16：20 ～ 17：20	問題Ⅲ解説	さいたま市立病院	藤田　功
17：20 ～	質疑応答		

今回は過去に行われた磁気共鳴専門技術者認定試験問題（MR 認定試験）から、症例を中心に骨と体幹部の問題を抜粋し模擬を作成、解説を含めて“試験対策とその臨床知識”ということで 3 部門に分けセミナーを企画した。一つの部門を各自 20 分で解答、その後 60 分かけて解答と解説を行った。模擬試験Ⅰとして埼玉医科大学付属病院の近藤先生が、頭頸部・脊椎・骨の症例 26 題の説明と関連事項について解説した。出血の時期や頭部の病変は、認定試験に関係なく現場でも知っておくべき知識であり整理することができたと思う。次に、模擬問題Ⅱとして済生会川口総合病院の丸先生が担当し、22 題の腹部・骨盤部領域の症例を中心に解説した。肝胆膵や婦人科および前立腺に至るまで幅広い領域であり、スライドにまとめるのも大変だったと聞いている。最後に、模擬問題Ⅲとして第 11 回 MR 認定試験の中から抜粋し模擬問題として 23 題をさいたま市立病院の藤田先生が担当した。臨床問題を模擬Ⅰと模擬Ⅱに回したため、基礎的な部分のみとなりアーチファクト・SAR・SNR・シーケンス・計算問題・安全性など、内容は多岐に及んでいた。臨床問題が多く正解を導くのに苦慮する部分もあったが、難解な問題の解釈も含めて説明したつもりであり試験対策としては好評であったと思われる。また前回と同様に埼玉県のみでなく近県の施設から多くの方々の参加があった。資料は後日見直すことができるように分かりやすく配慮し作成したつもりであり、臨床に関する問題は必ず出題され、年々増加している範囲であり試験を受験される方は復習しておくことを勧める。参加していただいた方、模範解答を考えていただいた SMC のメンバーの方、そして当日手伝いをしていただいた大森先生に感謝致します。

（埼玉県済生会栗橋病院　放射線技術科　渡邉城大）

平成 28 年度　救急セミナー開催報告（第三支部開催）
一次救命処置を習得しよう

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
学術委員　中根　淳

平成 28 年 11 月 16 日に、ウェスタ川越で救急セミナーが開催された。セミナーの参加人数は 14 人であった。今回は、第三支部開催としたため、地区会員の方に多く参加していただいた。内容および講師は以下の通りである。

1. ミニアンを用いた BLS 講習

講師：上尾中央総合病院　岡村 聡志　佐々木 健　中山 勝雅　矢島 慧介　吉野　和広
埼玉医科大学総合医療センター　大根田　純

敬称略

埼玉県診療放射線技師会として毎年行っている BLS 講習では、ミニアンを参加者 1 人に 1 体用意し、約 3 人に 1 人インストラクターを配置することで、質の高い BLS を習得していただいた。今回も、講師の方と参加者が一体となって、実技講習を進行することができた。胸骨圧迫に用いるミニアンは、しっかりと圧迫すると「カチ、カチ、カチ」と音がなる仕組みになっている。胸骨圧迫は、1 分間に 100 回することが推奨されており、会場内ではこの音がリズミカルに鳴っていた。参加者の方には、明日から使える知識を持って帰っていただけたのではないかと思っている。

最後になりますが、講師の皆さま、埼玉県診療放射線技師会第三支部役員の皆さま、およびセミナーに参加していただいた会員の皆さまにこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

平成 28 年度　第 15 回胸部認定講習会報告

学術委員　滝口　泰徳

平成 28 年 12 月 4 日に、第 15 回胸部認定講習会が開催された。

講習会参加人数は会員 29 人、非会員 2 人の 31 人であった。昨年度より多くの方に参加していただき、2 回目以降の参加者もおり、改めて胸部単純写真の重要性を実感した。

内容と講師は以下の通りである。

・胸部単純写真の撮影法	所沢ハートセンター	柴　俊幸
・装置の基礎	株式会社島津製作所	清水　達也
・胸部単純写真の適正線量と被ばく	済生会川口総合病院	土田　拓治
・胸部の CT 診断	羽生総合病院	染野　智弘
・胸部単純写真を診る	上尾中央総合病院	滝口　泰徳
・胸部単純写真の読影法	上尾中央総合病院	佐々木　健

アンケートの結果を下記に示す。基礎的な内容の「胸部単純写真の撮影法」や「装置の基礎」、読影に関する内容の「胸部単純写真を診る」「胸部単純写真の読影法」に関しての理解度は高かったが、前回同様、「胸部単純写真の適正線量と被ばく」や「胸部の CT」に関しては、一部の受講者より、難易度が高いとの回答があった。その背景として、受講者には若い方が多く、CT の経験が少ない方もいると考え、このような結果になったと思われる。フリーのコメントでは「今まで何度も胸部単純撮影を行いましたが、気を付けるところが多くあり、しっかりわれわれが撮影してあげることが大切だと思いました。ありがとうございました。」との感想を頂いた。講義を行った講師陣もこのような感想は非常に励みになり、今後もより良い講習会を目指そうと思えた。来年度も受講者の満足度が高い講習会内容を考え、興味がある方の多くの参加を心待ちにしている。

難易度	簡単	やや簡単	適度	やや難しい	難しい
胸部単純写真の読影法	0	1	28	2	0
装置の基礎	0	0	24	7	0
胸部の CT	0	0	16	14	1
胸部単純写真の適正線量と被ばく	0	0	9	18	4
胸部単純写真を診る	0	0	29	1	1
胸部単純写真の読影法	0	0	26	4	1

埼玉 CT コロノグラフィー研究会

医療法人財団献心会　川越胃腸病院　放射線科
主任　吉村　公一

【はじめに】

埼玉 CT コロノグラフー研究会のこれまでの経緯を簡単にご説明させていただきます。2013 年に川越胃腸病院の放射線科を中心として、外科医・内視鏡医の協力の下 CT コロノグラフィー研究会を立ち上げることとなりました。そして、2016 年 1 月から埼玉県の診療放射線技師が集まり、埼玉 CT コロノグラフィー研究会と改めスタートすることとなりました。

【活動概要】

年 1 回の研究会とセミナーの開催、ホームページ（埼玉 CT コロノグラフィー研究会：sites.google.com/site/sctcmeeting/home）にて、CTC の前処置・撮影技術・解析読影などを掲載し、CTC の普及活動を行っております。「みんなの CTC」として施設紹介や年間件数なども掲載して、情報提供を行っております。またレクチャー・コーナーには、内視鏡専門医による症例検討なども掲載して大腸病変の知識の向上に努めております。そして今後は、ホームページを通じて情報交換に役立てていきたいと考えております。それに伴い埼玉 CT コロノグラフィー研究会グループ・メール会員も随時募集しております。

【グループ・メール会員登録】

事務局：350-0034 埼玉県川越市仙波町 2-9-2 川越胃腸病院放射線科内
☎ 049-225-6888　fax049-225-6888 担当：吉村迄下記アドレスにてお待ちしております。
k.yoshimiura@kib.or.jp 施設名・部署・氏名ご記入の上、ご送信ください。＜会費無料＞

＜第 1 回埼玉 CT コロノグラフィー研究会／ 2016.11.10　会場：ウェスタ川越＞

今回の研究会は、一般演題 2 題、教育講演 2 題、特別講演 1 題と協賛メーカーの情報提供含めた内容でした。一般演題①「当院の CTC 検査が軌道に乗るまで」秩父病院　近藤和彦、一般演題②「CTC 術前検査について」武蔵野総合病院　福島正樹、教育演題①「CTC の前処置について」国立がん研究センター中央病院非常勤研究員　鈴木雅裕さまより、CTC バリウムの開発について、がんセンター中央病院での

秘話など交えて前処置についてご講演をいただきました。内容については、大腸残便標識のバリウムでタギングを行い、より安全な前処置で検査を施行する。そして偽病変を減らして、より正確な解析や読影を行なう事が大腸がん発見につながるという内容でした。教育講演②「大腸右側病変について」川越胃腸病院内視鏡専門医の浅野先生より、「大腸右側の病変は術後の予後が悪い」との発表がありました。大腸右側病変７症例（大腸右側：横行結腸の真ん中から肝湾側～上行結腸下端までの範囲となります。）をCTCと内視鏡画像で解析読影をしていただきました。今後は、大腸右側病変の早期発見に努めてくださいとのメッセージでした。最後に特別講演として、福島県立医科大学会津医療センター・放射線科歌野健一 先生にお越しいただき大腸CTについてご講演をいただきました。歌野先生は2016.07.22Radiology誌にてCTコロノグラフィーについての論文を発表され、今一番注目を集めておられる放射線科の医師です。今回のご講演の内容は、CTCの歴史・検出率・大腸CTの取り組みなど、私たち診療放射線技師に希望を与えるお話で会場を盛り上げ、研究会を締めていただきました。会場も真剣な眼差しと熱気を持って終了することができました。

【まとめ】

大腸検査は前処置で病変の発見率が大きく左右されます。大腸内視鏡検査ですと腸管洗浄剤２ℓを経口して、腸粘膜をクリアにしないと観察することはできません。しかし、CTCは残便を造影剤で標識することによって前処置負担を半分以下に抑えることができます。これは高齢者や女性の受診者に大腸検査を無理なく受けていただく大きなメリットとなります。そして目覚ましいソフトウエアの開発が検出率の向上につながり、CTCの大腸スクリーニング普及もそう遠くはないと考えております。今後はより安全な大腸検査を目指して、無理なく検査を受けられることを望みながら、CTCを推進してまいりたいと思います。

【結びに】

今回の研究会の成功も公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のご後援と田中会長をはじめとする理事の皆さまのおかげと深く感謝を致しております。まだまだ未熟な研究会でございますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。今後は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のお役にたてるよう、日々精進して参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 28 年度支部合同勉強会 in 熊谷開催報告
～成長の原動力となる「学びの場」を目指して～

埼玉県診療放射線技師会第二支部理事
所沢ハートセンター　大西　圭一

平成 28 年 11 月 12 日（土）ホテルヘリテイジ四季の湯温泉にて平成 28 年度支部合同勉強会 in 熊谷を開催した。昨年度は 2・3・4・6 支部の開催であったが、今年度は 1 ～ 6 支部全ての支部で開催することができた。私は、支部理事の中では年齢も技師歴も一番下であったが、年下だから、技師歴浅いから、という見方は一切されず、話を聞いてもらい協力していただいた。合同勉強会開催に反対の支部役員もいたとは思うが参加協力するという決断をしていただいたことに厚くお礼申し上げる。そういう先輩技師になれるよう日々自己研鑽し「人間力」 を高めていきたい。ここまで来れたのは現役支部理事だけでなく、5 年前からの支部合同勉強会に協力していただいた前任支部理事の方々のおかげでもあり、皆さまに厚くお礼申し上げる。

支部合同勉強会参加者は 157 人、懇親会 77 人と当初の想定を遥かに超える参加人数であり盛会に終えることができた。

参加者の中には非会員の方もおり、活気ある埼玉県診療放射線技師会をアピールすることができた。

これもひとえに実行委員 41 人と講師、座長の皆さまが合同勉強会のために自分は何ができるか考え行動していただいた成果であると考える。特に、支部合同症例検討会企画者の彩の国東大宮メディカルセンター茂木雅和さん、オブザーバーの小川赤十字病院田中達也さん、上尾中央総合病院金野元樹さんには多くのメール会議のやり取りでご尽力頂き、素晴らしいお仕事をしていただいた。

症例検討会では、参加者 23 人が質問し 6 人の講師とのディスカッションを行った。1 つのセッションでこれほど質問が出るのは過去をさかのぼってもこの支部合同勉強会の他にはない。

被ばく相談セッション企画者の埼玉医科大学病院の紀陸剛志さんにも興味深い企画をしていただき、お礼申し上げたい。

被ばく相談セッション参加者 6 人が 2 人の講師とディスカッションを行った。

質問者の皆さまも、研究会・学術大会などでも積極的に質問していただきたい。

勉強会では知識の「インプット」だけでなく、自分の考えや疑問点を発言する「アウトプット」を意識していただきたい。

富田副会長の講演であったように、現在の埼玉県診療放射線技師会には「危機感」の欠如が問題である。ぜひ全ての診療放射線技師がこの問題を共有し行動していきたい。

支部の活動では、「危機感」「安心感」「期待感」「一体感」をバランスよく支部役員と共有し、自己の成長と地域活性化に努めていきたい。

支部合同勉強会懇親会の目的は 2 つある。埼玉県内の診療放射線技師世代を超えた交流をしてコミュニケーションスキルの向上を行うこと、職能団体の第一線で活躍する JART 小川さん、SART 田中会長、富田副会長と直接対話を行い技師会の活動に対して積極的になることである。

組織が活性化するためのコミュニケーションには 2 つある。

①　人との信頼関係を築くコミュニケーション
②　人に影響を与える、人を動かすコミュニケーション

ぜひ、自分の職場の狭い人脈より外に出て、年上年下関係ない縦横無尽の人脈作りをしていただきたい。

自分が何をしたいか明確にするために、自分が変わると能動的に人脈をどうしたいのかを意識するようになり充実した行動が取れるようになる。

最後に、実行委員 41 人と講師と参加者の最高のチームで作り上げた支部合同勉強会を盛会で終え、最終的には笑顔で終われる会となったことを報告し、お礼申し上げたい。

業務拡大に伴う統一講習会　北関東地域（埼玉県）　開催報告

学術理事　城處　洋輔

（公社）日本診療放射線技師会の主催とする業務拡大に伴う統一講習会が、以下の日程においてJCHO埼玉メディカルセンターにて開催された。他県からの参加者も含め、本年度第2回は48人、第3回では47人が2日間にわたり受講された。講義および実習を通じて業務拡大に伴う必要な知識や技能の習得、またはそのきっかけになった事と思われる。受講生の皆さま、また実習を担当された指導者や会場スタッフの皆さまにはこの場をお借りしてお礼申し上げる。

日程：平成28年度　第2回　10月1日（土）、2日（日）
　　第3回　12月3日（土）、4日（日）

プログラム：

〈1日目〉
9：00～ 9：50　講義（DVD放映）静脈注射関係
9：50～10：40　講義（DVD放映）静脈注射関係
10：50～11：40　講義（DVD放映）静脈注射関係
11：50～12：40　実習・演習　静脈注射
13：30～14：20　講義（DVD放映）法改正
14：20～15：10　講義（DVD放映）IGRT
15：20～16：10　講義（DVD放映）IGRT
16：10～17：00　講義（DVD放映）IGRT
17：20～18：20　実習・演習　BLS

〈2日目〉
9：00～ 9：50　講義（DVD放映）下部消化管
9：50～10：40　講義（DVD放映）下部消化管
10：50～11：40　講義（DVD放映）下部消化管
11：40～12：30　講義（DVD放映）下部消化管
13：20～14：10　実習・演習　下部消化管
14：20～15：10　実習・演習　IGRT
15：20～16：10　試験説明および確認試験

スタッフ：

〈指導者〉	大森　正司	さいたま赤十字病院
	石田　直之	埼玉医科大学総合医療センター
	佐々木　健	上尾中央総合病院
	八木沢　英樹	JCHO埼玉メディカルセンター
	吉野　和広	上尾中央総合病院
〈指導補助者〉	滝口　泰徳	上尾中央総合病院

（敬称略）